

景況実感調査(2018年2月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 実働19日(前月比1日増)だが売上、数量ともに微増。工作機械、建機等のパーツメーカーを含めた繁忙感は報道されているが、建築向け店売り市場は盛り上がりを実感出来ない。メーカー販価の上昇ペースにユーザー向け販価改訂は遅々として追い付いていない。トラック不足も深刻化してきた。運賃値上げと来期の昇給を実施しなければ回らなくなると考えられるので、販価として得意先をお願いするしかない。製造原価も販管費も、新年度予算は上昇率が跳ね上がるのは確実となり、売上増を予測するも、コストアップがそれを上回りかねない。
- ② 高炉メーカーの供給はタイトであるが、薄板三品在庫は上昇基調にある。流通間での品薄感が無くなり、追加値上げが浸透しづらくなってきた。
- ③ 12月、1月と店売り(特約店販売)は不調だったが、2月は日当たり微増となった。直需(ユーザー売り)は引き続き好調である。高炉メーカーのロールは一時より遅れを取り戻してきているが、高い価格に値上がりした材料が入荷しているので、荷動きと関係なく値上げはして行かなければならない。
- ④ 需要家は全般的に好調を維持しているが、店売りの同業社からの引合いは、さほどではなく、まったく感も受ける印象だ。今回のアメリカの輸入制限措置(関税含む)でどう国際マーケットに影響が出るか。

中板

- ① 総じて鋼材需要は堅調のようであるが、店売りマーケットは1月中旬より荷動きにやや停滞感があり、前月比では1月に引き続き売上が減少している。供給サイドのロール削減見通しから昨年末に二次三次特約店が在庫手当てを行った結果、その反動で今年に入り受注が減退したのではないだろうか。人手不足の問題や大雪の影響から工事のずれ込み懸念があるが、全体としての景況感は悪くない。コイルセンター、特約店にとってはトヨタ自動車向けの来年度上半期の価格が据え置かれたことから、店売り価格との単価上昇幅に格差が広がって行くことが予想され、ユーザーへの価格転嫁が更に困難になるであろう。

厚板

- ① 建設新規物件はある。口銭は取れないが、要素を大切にしていくことでメーカーサイドの値上げも理解して頂き、価格に転嫁していきたい。

开金鋼

- ① 2月の荷動き不振の原因を雪害かメーカーの値上げラッシュの煽りかと詮索していたら、去る1月28日経済産業省が発表した1月の鉱工業生産指数が17年12月に自動車、建機の生産が大きく伸びた反動で4ヵ月ぶりに前月を下回ったとの説明が妙にリアルであった。現状のまま3ヶ月後の5月を迎えるとなると、例年1年で一番不振な月なので市況、在庫が気になる。

H形鋼

- ① 2月の倉出しは前月比微減で、前年同月比は微増。1月から大きな変化はなく、一服感はあるが、3月以降需要はあり、採算重視で価格転嫁していく。

異形棒鋼

- ① 2月中旬以降、荷動き低迷となり、需要の盛り上がりはなくなった。新規物件は引き続き少なく、メーカー価格のみ独り歩きをしている。

平鋼

- ① 荷動き状況は変わらず。価格転嫁も少しずつ行っているが、まだ時間がかかる。メーカーの値上げに加え、輸送コストも上昇しているため、引き続き値上げのお願いをしていく。
- ② 例年と比べると出荷量は悪くなかったが、内訳を見ると物件のデリバリーが重なったことが要因で、店売りの動きは弱くなっている。

軽量形鋼

- ① 店売りの商いが1月下中より低調になってしまい、未だに復調の気配が無い状況である。
- ② 受注減が続いており、当分継続する見込み。

鋼管

- ① 1月比、荷動きは上向き。2月は値上げスタートとなり、売上上伸。先行き大きな荷動き変化も見込めないが、もう一段の価格転嫁を進めたい。
- ② 1月の低調からやや回復してきたものの、前年比横ばいであり、工事遅れも更に増えている傾向が見られる。価格は強含みで推移。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連は部品輸出を中心に高水準の生産が続いている。建設機械関連は輸出主体に増加傾向となっており、しばらく続くものと思われる。他、工作機械は生産増加により一部の部品が不足傾向となっており、生産に支障をきたす状況となっている。店売りの荷動きは、ほぼ堅調に推移している。市況については、各メーカーの再値上げに伴い再販価格の値上げを進めている。市中在庫は各メーカーの受注抑制や納期遅れが続いており、更にタイトな状況となっている。
- ② 先月より数量は増えているが、稼働日数の関係だけで、実感としては低調横這いが続いている。また、再販価格の転嫁が急がれる状況である。
- ③ 毎年1月は通常月より20～30%物量(出荷)が少ない傾向。2月は先月比で+20～30%増の出荷。したがって、前月比では「やや増加」前年比では「横這い」だ。

鋼材全般

- ① 1月下旬から悪い流れのまま2月も経過してしまった感もある。メーカー値上げは顕著であるのに対して、メーカー値上げを転嫁し安定した収益を確保することが出来なかった。

その他

<スクラップ>

- ① 2月の旧正月明けより、輸出向けを中心に荷動きが活発になってきた。国内メーカーの粗鋼生産も高い水準が続いているようなので、スクラップ市況は強含みで推移していきそうだ。

<金属表面処理加工>

- ① 2月は購入品(塗料・副資材)の値上げにより加工賃の値上げを取引先にご理解頂き開始となる。扱い量としては前月比10%増。紐付き・物件物は計画通り。スポットは引合い、受注とも活発であり15%増となる。3月も紐付き材及び物件物の量が安定しており、2月同様の操業を予定。